



**九州旅客鉄道労働組合**  
**No. 507 (2023.8.15)**  
 福岡市博多区博多駅前3丁目13-4  
 TEL 092-472-7950(代)  
 URL http://www.jr-krwu.jp  
 発行人/吉田祥司 編集人/青木幹雄



**特集**  
**第32回定期大会(詳報)**

J R九州労組は7月5日、北九州市で「第32回定期大会」を開催し、2023年度運動方針を決定した。吉田祥司委員長をはじめとする新執行部を選出し、新たなスタートを切った。

**芦原中央執行委員長あいさつ(要旨)**



日頃からJ R九州労組の取り組みに対するご理解とご協力に感謝申し上げます。コロナ禍では感染症法上の分類変更等で行動制限が解除され、お客さまのご利用状況等もコロナ過前の9割程度まで回復してきました。一方、長期債務の拡大や動力費等の高騰により依然として経営体力は厳しい状況にあり、引き続きJ R連合と連携し本格的な回復の為に息の長い支援を求めています。

また、離職に歯止めがかからず労働力の流動化が加速する中、より強固な組織と運動を創る取り組みを推し進める。

◆**安全の確立**  
 安全の確立は事業運営の根幹であり、安全衛生委員会を積極的に活用しつつ職場からの安全確立を積極的に進める。

◆**政治**  
 4月の統一地方選挙では組織内議員4人が全員当選を果たした。組合員の協力に感謝する。

◆**組織の強化・拡大と活性化**  
 コロナ禍の影響により、現場組合員の間には将来を不安視する声が多く寄せられており、そうした声に徹底して寄り添い共に解決に向けた道筋を思考し、歩み続ける組織と運動が求められている。

◆**労働条件の回復・改善の取り組み**  
 人事・賃金制度の見直しは労働市場における流動性の高まりや多様化する価値観も踏まえ、すべての組合員が安心して意欲高く働ける制度を目指し、機関会議や職場集会、団体交渉を積み重ねてきた。一定の成果

が確認できた一方で残された課題に向け、今後の対応を意思統一していきたい。

◆**山田信隆(北九州支部)**  
 ・人事・賃金制度の改正について昇格試験のE級の受験をC1から受験できないか。また、エリア限定社員については設定地域の細分化、賃金減額の撤廃を求め、最後まで本部の奮闘を期待する。

◆**舟本純(博多支部)**  
 ・効率化施策の実施には十分な説明や対応が必要。丁寧な対応を求め、以前の年末手当交渉で経営幹部よりあり得ない発言があった。経営陣は何を考えているのか。怒りしかない。

◆**南真一(筑豊支部)**  
 ・要員の不足により年休の取得率が非常に低い。現在、職場で調査しており統計を報告する。嘱託再雇用社員の日増しに対して要員の見直しが必要。

◆**中村秀人(博多支部)**  
 ・平成採用の組合員の脱退が続いている。経過・方針で対応しているが、状況に合わせた施策の見直しを強く求める。

◆**大場信一(大分地本)**  
 ・コロナ禍でレク活動が停滞し組合員同士の繋がりが希薄となり、職場集会の参加率等にも影響が出ている。今後は家族等も対象にしたレク活動で繋がりを構築し、組合への求心力の向上につなげてはどうか。

◆**上森奈志(鹿児島地本)**  
 ・地方の車掌職場が廃止・縮小され不安の声がある。安全やサービスに車掌は不可欠な存在であり今後の将

も、住宅援助金を支給されたい。

◆**永嶋正己(本社支部)**  
 ・この間の会社施策等への対応について労働組合に対する不満の声が出ている。組合員の負担軽減策として組合費の減額を求め、

◆**難波 悟(大分地本)**  
 ・保守・工事等指揮監督手当の支給対象に列車見張り員を追加するよう求める。

◆**森永克章(佐賀支部)**  
 ・老朽化した寮・住宅の整備をさせたい。配属地域によって福利厚生に格差がある。若年層と中堅層のアンバランスがある。年齢給の引き上げと各種手当の見直しを比較すると現行より支給額が減額となる懸念がある。

◆**成清智宏(北九州支部)**  
 ・人事・賃金制度の改正は若年層と中堅層のアンバランスがある。年齢給の引き上げと各種手当の見直しを比較すると現行より支給額が減額となる懸念がある。

◆**吉松勇治(長崎地本)**  
 ・必要ない要員に対する認識が組合と会社で乖離している。時間外労働の実績を見ても要員の不足は明らかであり、会社に認識の再考を求める。

◆**久森圭太(青年・女性委員会)**  
 ・会社から人事・賃金制度の改正が示されたが、若年層の離職が続いている。会社は問題の本質を理解しているのか。

来展望を示してもらいたい。

◆豊増悟司(長崎地本)

・ 駅体制の見直しで委託から直営となる場合の管理業務はどうなるのか。サービスサポートからの社員化について地域社員からは不満の声が出ている。

・ コロナ禍から回復基調にある中で、減らされた要員の見直しを求める。窓口の混雑等でお客さまからのご意見が増えている。

◆井口祥一(本社支部)

・ 脱退対策の取り組みについて方針で具体的に触れられていない。執行部としてどのように考えているのか。具体的な対策を示して欲しい。

◆濱田享二(熊本地本)

・ 組織の強化・役員の育成にはコロナ禍で激減した連帯感が必要。退職者連絡会とも連携した企画の検討を。

◆佐田勝也(長崎地本)

・ 西九州新幹線開業は組合員の努力の賜物であるが、一方で月1000時間を超えている時間外労働が発生している。組合と会社の要員への認識の乖離を是正しなければならぬ。

◆上原屋浩二(鹿児島地本)

・ 特急の不正乗車対策として宮崎の車掌が特攻に業務している。昨年の車掌の解消は何だったのか。再三議論したにも係らず施策を実行した会社の責任は大きい。

◆喜聞陽平(筑豊支部)

・ 人事・賃金制度のエリアを拡大されたい。

◆吉井慎(博多支部)

・ 組合費等の金銭的理由で脱退者が増えている。何らかの対策ができないか。

◆大久保総務財政部長

・ 集会等で、組合費に対する声がある事は承知しているが、組合員の減少等で財政は非常に厳しい状況にある事はご理解いただきたい。

◆木村中央執行副委員長

・ 離職や組織対策には日頃の世話役活動や組合員に寄り添い対話を重ねていく等の地道な活動が必要で、具体的な対策について本部として示せていない事はお詫がするが、今後とも担当者が協議等で議論を行い、一体となって対応したい。

◆花田共闘部長

・ 組織問題への対応のため、支部役員フォローアップにこれまで以上に取り組んでいく。

◆住吉業務部長

・ 人事・賃金制度の改正は、第28回定期大会で中期労働政策ビジョン「チャレンジ2023」を策定した後の2020春季生活闘争において、組合が系統間の賃金格差や高齢者層の賃金改善を強く主張し、会社側も勉強すると回答したところから始まったと認識している。第31回定期大会でJR九州労組の考えをまとめ、会社に第一次要求を申し入れたのを皮切りに、職場集会や全機関代表者会議を開催し、第五次要求まで団体交渉を行ってきた。

◆北村中央執行副委員長

・ 改正地域活性化再生法の成立はJR連合国会議員懇談会や21世紀の鉄道を考える議員フォーラムを通じて我々の働きかけの成果であり、組合としても積極的に連携して取り組んでいく。

◆吉田女性活躍推進担当

・ 会社は「プラチナくるみん」の取得等、内外へ向けアピールしているが、積み残された課題は多い。引き続き改善を求めていく。

◆安全

### 執行部答弁

・ 中間層に恩恵が少ないとの声があることは認識している。会社の説明では現行の支給額より下回らないとの事だが、検証する必要がある。場合によっては是正措置を求める。食費関連手当等についても引き続き求めていく。

・ エリア限定制度の協議において、会社は何らかの待遇面の差が必要との考えを示した。待遇面の差が必要であるならば、加算の考えで行うよう組合として主張してきた。

・ 6両ワンマンの導入は本部でも現地調査を行い、遅延状況や乗降の様子等を確認した。ワンマン運転の実施には、運転士の負担軽減の為にモニター等の必要な設備の整備は当然であり、専門協議会等の協議で厳しく指摘してきた。安全の観点からも引き続き取り組む。

・ 車掌職場の将展望はこれまでも具体的な説明を求めてきた。車掌解消後の問題点も含め、今後も取り組んでいく。

・ 車両や施設関係の技術継承の問題は、鉄道事業の根幹となる安全面からも課題である。引き続き協議をしていく。

・ 多様な働き方の実現に向けてフレックス制の導入や短時間勤務、時間単位の年休取得等の改善をしてきた。リターン制度の対象拡大も含め、今後も働き方の改善を求めていく。

### 吉田書記長 集約答弁(要旨)

◆安全

◆業務

◆総務・財政

◆さいごに

◆政策政治活動

◆組織

◆安全

◆業務

◆総務・財政

◆さいごに

◆政策政治活動

◆組織

◆さいごに

◆安全

◆業務

◆総務・財政

◆さいごに

◆政策政治活動

◆組織

◆さいごに